

(様式 1)

令和 6・7・8 年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2 年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	向日市立第2向陽小学校							校長名	大畠 美佐子
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	532 名
学級数	3	3	3	3	3	3	4		
事業担当教員名	須山 みさき								
① 中学校区で目指す子ども像		・人とつながりながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子ども ・自ら見つけた課題について、探究的に深く学び解決できる子ども							
② 目指す子ども像		○「考え、学ぶ」楽しさや「わかる、できる」喜びを味わい、人と「関わり、認め合う」ことを通して、「自分はかけがえのない存在である」ことを実感できる子ども ○失敗や間違いを恐れず、何事にも前向きに取り組み、自分から問いをもちながら次に進むことのできる子ども ○学んだこと、身に付けたことを次に自ら活かすことのできる子ども							
③ 目指す子ども像に対する現状と課題		○自分の思いや考えをつぶやいたり、口にしたりする児童は多いが、じっくり考えたり深めたりするなど探究的な学びには至っていない。 ○やってみたい思いや好奇心にあふれる児童が多い。積極的に行動する児童がいる反面、間違えたり少し難易度が上がる課題に直面したりすると諦めてしまう場面もみられる。 ○学習したことを生活の場で活かせた、という実感を伴う経験をする場が少ない。							
④ 目指す子ども像に達するための仮説		○向学心と深い学びを育む児童の問いを大切にした授業の実践 ・しっかりと話を聞き、考え、丁寧に話す、言葉で確認することを大切にした授業 ・導入、問いの引き出し方、見方考え方の明確化などこれまでに算数科研究で得た成果や手法を活かした児童の思考の流れを大切にする授業 ・「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」を活用し、認知能力及び非認知能力など学力とは何かの捉え直し、その上で各種調査をふまえた分析を取り入れた授業 ・ロイロノートを基本に、教育目標に即した効果的な ICT 活用を取り入れた授業 ・小中の接続を明確に意識した授業 ○自己調整力を身に付け、主体的に学ぶ力を育てるための取組 ・学ぶ意義や目的について意識をもち、見通しをもって学習に臨むための家庭学習 ・児童の主体的な活動を支援し、自己有用感を高める異年齢活動 これらの実践を積み重ねることにより、人とつながりながら、生涯にわたって主体的探究的に学び続ける子どもを育てることができないのではないか。							

令和 7 年 5 月 1 日現在

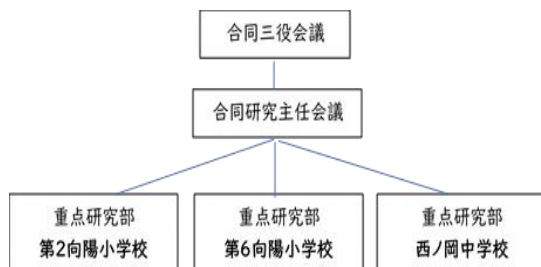
※ 1 ～ 4 は、「研究計画書」として年度当初に記載する。

【 1 研究主題】

子どもたちの問いを大切にした算数授業の追究
～子どもの見取りを生かして、より深い学び～

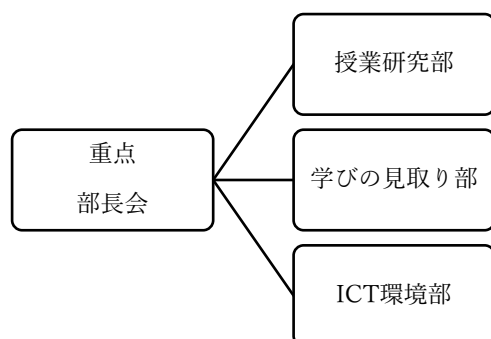
【 2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制



西ノ岡中学校ブロック合同研究会(西中ブロック研究会)
 …3校の教職員全員が参加する研究組織とする。
 …3校の三役9名による合同会議、研究主任会議を中心に、
 連携・協力して研究を進める。
 …事務局機能は、第2向陽小学校に置くこととし、第2向
 陽小教頭(サブとして教務主任)が各校教頭などと連携
 しながら合同で研究に係る事務を進める。
 …合同三役会としてあるいは各校ごとに、学校運営協議会、
 幼保・高校など近隣教育機関との情報連携を行う。

(2) 校内の組織体制



全教職員が各部に所属。校長が中心、研究部長が主な推進役とな
 り研究を進めていく。重点部長会(部長・副部長+校長・教頭・
 教務主任)を中心に研究の進捗状況を確認しながら実践を積み重
 ねていく。

- 授業研究部 …校内研修、研究授業を実施し、授業改善と
実践的指導力の向上を図る。
- 学びの見取り部 …児童の学力的課題を的確に把握し、基礎学
力の育成を図る。
- ICT 環境部 …学パスの分析や各種アンケートをふまえて、
効果的な ICT の活用について提案を行う。

【 3 具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等	家庭 学習 につ いて の 検 討 ・ 実 施
4 月	4月上旬…本年度の研究について 昨年度の学びのパスポート結果より	
5 月	5月下旬…4年生研究授業	
6 月	6月中旬…3年生研究授業 6月下旬…西中ブロック研究会	
7 月	7月下旬…児童の思考の流れを活かした算数の授業について 探究的な学びのために(講師:尾崎 正彦氏)	
8 月	8月上旬*学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会 8月下旬…西中ブロック研究会(講師:府教委等希望)	
9 月	9月下旬…6年生研究授業	
10月	10月上旬*第2回分析・活用研修会 10月下旬…2年生研究授業	
11月	11月中旬…研究公開、特別支援学級研究授業	
12月	12月下旬…令和6年度学校改善プランの見直し	
1 月	*研究校交流会(予定) 1月下旬…5年生研究授業	
2 月	2月下旬…1年生研究授業、本年度の成果と課題の検証	
3 月	3月中旬…令和7年度学校改善プランの作成 西中ブロック研究会	

※研究授業後、事後研究会で出た意見を生かしブラッシュアップ授業に取り組む。

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
4 5 6 年	3 1	わからない問題に出会ったときに、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
	3 3	目標を達成するためのより良い方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。	自己調整	
	7 8	算数の授業では、自分で疑問に思ったことを自分自身で調べたり、他の人に聞いたりする機会がある	主対深	
	7 9	算数の授業では、自分の思いや考えをもとに答えを見つけ出すような課題に取り組む機会がある。	主対深	
	8 0	算数の授業では、授業の最後に自分自身の学習内容を振り返り、学習目標（学習のめあて）が達成できたかどうかを考える機会がある。	主対深	

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法 ・ヒントカードを用いる。 ・授業での問いやしかけを工夫する。 ・分かる喜びをスモールステップで実感させる。 ・できたことを肯定的に、小さいことでも評価する。 ・1週間の見通しをもてるように計画を立てさせる。 ・苦手意識を取りのぞけるように、課題を選択していく。 ・学び方の選択（個人・グループ・先生と）をさせる。 ・ロイロノートなどを使って人の意見を見やすくする。 ・問題数を少なくして毎日継続して既習学習の復習をする。 ・他者と協力して問題を解く場面を設定する。
集団としての具体的な指導・支援方法 ・じっくり考える時間を設ける。 ・全体に発信できるよう、話したり説明したりする時間を設ける。 ・ペアやグループでの話し合い活動の中で、困っている友達にヒントを出す時間を取る。 ・単元のゴールを先に提示する。 ・自分の考えを深めないと解けない問題づくり（教材研究）を行う。 ・他者と関わる場面を意図的に授業に取り込む。 ① 話す目的を共有する。 ② 話した後（他社の意見を聞いた後）自分の考えとしてまとめるなどアウトプットする。 ・知識を定着させる授業も行う。 ・ペアやグループで振り返りをしたり、友達の意見を聞いて自分と比べたりする活動を設定する。

【8 仮説の修正】

・自力解決の時間や学習の理解度を振り返るような機会を設けることが必要ではないかと考えていたが、まずはじめに単元のゴールを示すことで見通しをもって学習に取り組めるようにした。

・仲が良い同士だと学びあう姿が見られるが、どのような場面でも自分の考えを深める機会が必要ではないかと考えていたが、人と話すことに苦手意識をもつ児童に関しては、仲が良い同士からの学び合いからのスタートが有効であったと考える。その後、交友関係がない児童とも交流をしていくことにより、スモールステップで自分の考えを広げていけたり相手に伝えたりすることができた。

【9 具体的な取組内容の修正】

・単元のゴールを示した授業を行うことで、学習している内容以外にも自ら必要だと思うことについて派生して学習する姿が見られた。

・他者の意見を聞いた後、自分の考えをまとめる際、今日の授業のキーワードなども考えながらアウトプットさせることで、より自分の考えを明確にまとめることができる児童が増えた。

※10、11 は、「実績報告書」として年度末に記載する。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

・ICT（ロイロノート）を活用することで、説明をしようとする児童が増えた。話を聞く時も集中して聞こうとする児童が増えた。

・1週間の見通しをもてるように計画を立てさせるため、本校では4～6年生共通でフォーサイト手帳を導入した。その結果、先々の予定や見通しをもったり書き込んだりして学習だけでなく、学校行事等も見通しをもつことができた。

・ペアやグループでの話し合い活動の中で、困っている友達にヒントを出す時間を取るようにしたが、ヒントを出すことが難しい児童もあり、話し合い活動の難しさもあった。

【11 3年次の研究構想】

西ノ岡中学校ブロックとして、年度当初から授業改善等の交流を図っていききたい。

また、3校の三役9名による合同会議、研究主任会議を中心に、連携・協力して研究をさらに進めていききたい。

本校としては、算数の重点を続けていききたい。目指す子どもの児童像と授業中の子ども達の姿を照らし合わせた視点と学びのパスポートの分析の視点の両方の視点を合わせ、子ども達のやってみたいを生み出す授業作りに取り組んでいききたい。そのため、子ども達一人一人がもっている強みも生かせるような授業作りや校内研修を行っていききたい。